

# 1. 調査報告概要表

## 【認知症対応型共同生活介護用】

作成日 平成19年8月20日

### 【評価実施概要】

事業所番号	2773300328
法人名	社会福祉法人 慈福会
事業所名	グループホームめぐみ苑
所在地	大阪市西成区千本北2丁目12番2号 (電話) 06-6652-5811
評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1番54号 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成19年8月1日

### 【情報提供票より】(平成19年7月1日事業所記入)

#### (1) 組織概要

開設年月日	平成11年3月25日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	12人	常勤	7人, 非常勤 5人, 常勤換算 10人

#### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3階建ての	1階 ~	1階部分

#### (3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) ②			
保証金の有無 (入居一時金含む)	① (150,000円)	有りの場合 償却の有無	① / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,400円			

#### (4) 利用者の概要 (平成19年7月1日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	7名	要介護2	0名		
要介護3	1名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	1名		
年齢	平均 82歳	最低	74歳	最高	93歳

#### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人慈徳会 浦上病院
---------	--------------

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設から約9年グループホームの草分け的存在で、モデルケースとして始められた家庭的な雰囲気を重視したホームです。地域とのふれあいも活発で自治会に入会しており、地域の人々によるボランティアの協力も盛んです。毎週かかりつけ医の往診や精神科医の定期往診もあって症状の方向や対応について相談しています。日中は鍵を掛けず職員が見守りをしながら連携をとって対応し、自由な暮らしを支えています。また、建物周囲には花壇や庭があり、草花や野菜を植え植物の成長や観察、収穫することで利用者の方々に対し楽しみを作っています。

### 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連科目:外部4)</p> <p>前回の改善課題として玄関の表示をわかりやすくすることが求められていましたが、今回は玄関に分かりやすい表示がありました。また介護計画書及び金銭出納帳には家族のサインや了解印が押印されています。食事については、主食副食共柔らかく調理する工夫がされています。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価については、施設長、管理者が集まって協議し作成しています。今後は、自己評価の意義や目的を全職員で共有するためにも、全職員で取り組むようにすることが望まれます。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>委員より地域で行われている行事予定を教えてもらい、席を確保してもらうなどし、利用者も行事に参加し喜ばれています。また認知症の進行や身体機能が低下してきた時に、グループホームでの生活がどこまで続けられるかが議題になり、グループホームとしてもマニュアルの作成をしてはと委員からの提案もあり、検討を始めています。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>玄関脇に苦情箱を設置しています。家族来訪時には職員が声かけをして苦情や意見、希望を聞くようになっています。また年1回家族会を開催しています。家族会開催時には職員はあえて中に入らず、家族の方達だけで意見を出してもらったり親しく話し合ってもらえる機会を作っています。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>日常的には近隣の福祉会館に出かけて、ふれあい喫茶を楽しんだり、近所へおやつを買いに出かけ、地域の人たちにとの会話を楽しんだりしています。運営推進会議委員の中には、町会長やネットワーク委員がおられ地域の行事を案内してもらい、積極的に活用しています。</p>

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	①利用者の自立のための支援②利用者の能力を維持するための支援③利用者の潜在能力を引き出すための支援、を基本理念として職員と共に確認して、利用者の方々が好きなことを好きな時に好きなだけできるように取り組んでいます。 今後、理念について、地域密着型サービスとしての役割をより目指した内容となるよう作り上げられることが望まれます。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の提示があり、職員には日頃から方針や目標を理解しているか話し合う機会もあります。職員証の裏側に理念が印字されていて日々確認されています。利用者や家族にも説明して理解を得ています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている	近隣にある福祉会館のふれあい喫茶には毎回参加して、地域の方との会話を楽しんだり、地域の行事予定を教えてもらったりしています。また、地域のお花見には見やすい所に椅子を準備してもらい、逆にグループホーム内の納涼会には近所の方たちに参加してもらったりして交流しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義や目的を会議で共有し、外部評価の結果は来訪した家族が見ることができるように掲示しています。また、改善に向けて話し合い、具体的に改良されている点もありました。自己評価については、施設長や管理者と作成して全職員に伝えています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の規定、規約を作成しています。また、会議録により出席者が確認でき、会議で得た意見をサービス向上に活かせるように努めています。また、事業所の取り組みの内容や改善課題を職員間でも話し合っています。運営推進会議は2ヶ月に1回開催しています。今後も事業所を理解してもらう機会として積極的な活用が期待されます。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターに対し運営推進会議への参加を依頼し、その際にグループホームの情報を伝えたりしています。 管理者が市町村と連絡を取り合っています。また、近隣の中学生の福祉体験プログラムの受け入れも行っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会の時間は自由にして、来訪しやすいようにしています。来訪時には近況を報告し相談にも対応しています。また、毎月1回は行事報告や、金銭出納の状況について書面で郵送しています。おたよりには行事の写真や近況報告を記入し、家族に喜ばれています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関脇に意見箱を設置、家族会は年1回開催しています。家族の方たちだけで苦情や意見を出してもらい、職員ミーティングの際に内容を検討してその結果を家族の方たちに報告しています。例えば、家族会の要望で職員の名前と顔が一致するように職員一覧を掲示するようにしました。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職は最小限に抑えるように努めています。新しい職員に対しては業務マニュアルを作成しており、スムーズになじめるように工夫しています。認知症の利用者にとってなじみの関係は大切なことで、今後とも異動を最小限にすることが期待されます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、内部研修ともに参加する機会を設けています。年間のおおよその計画も立てられており、どの職員も参加できるように配慮しています。新人研修については、マニュアルを作成、活用しています。また、研修報告書の提出もあります。今後は、伝達講習についても充実されることが望まれます。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大阪認知症高齢者グループホーム協議会の研修会などに参加しています。グループホーム間での意見交換は行っていますが、相互訪問などには至っていません。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にはホームの見学を受け入れ、雰囲気を味わってもらい、利用者や家族より情報を収集してサービスの提供へとつなげています。また、利用開始前に職員が家庭を訪問する機会を設けています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から「お花には命があるの」とその大切さを教わり、詩吟の上手な方には教えてもらう等、お互いに得意な分野で能力を発揮してもらっています。野菜作りが得意な方は朝夕の水やりなどで活躍してもらい、収穫した野菜は漬物やサラダにいただいています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で声をかけ、一人ひとりの思いや意向の把握に努めています。言葉や表情から読み取ったり、確認したりしていません。意思疎通の困難な方には、家族や関係者から情報を得て、入居に至るまでの記述があります。また、「私の基本情報シート」や「家族シート」、「私の生活史シート」、「私の暮らし方シート」等のアセスメントシートを活用しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	週1回のミーティングや全体会議に職員が参加して介護計画を作成しています。利用者や家族、職員の意見を取り入れて反映させ、家族に同意をもらっています。またアセスメントシートも作成しています。あんしんさぽーと事業（地域福祉権利擁護事業）を活用している方もいます。 しかし、作成された介護計画書を職員全員で確認したことを示す印が見られませんでした。	○	作成された介護計画書を職員全員で確認していますが、確認したことを示す確認印が求められます。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画については3ヶ月から6ヶ月ごとに見直しを行っています。目標については、日々の記録や週ごとのミーティング、不定期の会議での話し合い、利用者の状態の変化や状況、家族や利用者の要望に応じて見直しています。アセスメント記録、カンファレンス記録、モニタリング記録や見直された介護計画書もあります。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ショートステイは空き部屋がなく、現在は実施していません。医療連携体制を実施して、訪問看護師により週1回の訪問を受けています。緊急時対応についても体制が整っています。終末期の利用についても家族と相談しながら可能な限り、ホーム内で支援を実施したいとのことです。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者家族が希望するかかりつけ医を受診する機会を設けています。また、協力病院への通院は職員が支援していますが、夜間の医療機関の連携についても確保しています。 重篤な病気を患いながら入居されている利用者についても、家族と連携を取りながら支援をしています。 連絡ノートには医療的な変化についても、詳細に記載されています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期や重度化した場合の対応については、医師、看護師、介護職員、家族と共に話し合い、意見を確認しながら支援の方針を決定し、情報の共有も行っています。 今のところ、ハード面での対応が困難となる事態も考えられますが、できるだけ住み慣れたホームで暮らせるように支援しています。		



外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員一人ひとりが勉強会やミーティングの際にプライバシーに関する意識の向上を図る様にしており、また日々の介護の場面でも利用者を尊重した対応を心がけています。一人ひとりの誇りやプライバシーの尊重には注意を払い、言葉使いも丁寧です。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の日課は決まっていますが、利用者の日々の体調や希望に合わせて過ごせるように支援しています。できるだけ個別性に配慮した支援を行っています。 少しだけ横になりたい時などは、自室で自由に過ごせるように配慮しています。 読書の好きな方には居室に沢山の本を用意し満足してもらっています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は一括購入し、調理はホーム横の調理室にて作られています。月1回旬の食材を使ったメニューを利用者とともに皆で考えて料理教室を開いています。日常でも配膳や食器洗い等、利用者も参加して楽しんでいます。職員は利用者と同じテーブルを囲んで食事をし、見守りながら会話をしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴については、曜日や時間は決まっていますが、希望があったり入浴拒否をしている時は曜日を変更したりして対応しています。基本的には週2回の入浴支援となっています。	○	回数については週に3回以上入浴されることが求められます。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	花や植物の手入れの好きな方には水やり、野菜を植えて収穫を楽しんで食材に利用したり、縫い物の得意な方に雑巾や腕につけるカバーを作ってもらったり、詩吟の得意な方はボランティアと詠ったりと様々な場面を作って生き生きと暮らせるように支援しています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望を聞きながら、日常的に散歩や買い物などに出かけています。 近所の喫茶店や外食にも出かけています。月1回自宅へ帰宅している利用者もいます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけないようにしています。職員が見守りをしながら、外出を察知した時はさりげなく一緒に同行しています。近所の方とも顔見知りになっているので利用者の方が外出されていると教えてもらうこともあります。夜間は防犯上玄関に鍵をかけています。身体拘束はみられませんでした。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時のマニュアルを作成しています。消防訓練を実施し、災害の際には自治会にも協力をお願いしています。年に2回の避難訓練を行っています。しかし、非常用の水や食料が十分に準備できていませんでした。	○	今後、災害時等の非常時に備え、非常用食料や備品を準備し、定期的に点検することが求められます。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの栄養摂取量や水分摂取量を把握しています。また栄養バランスについては専門家によるカロリー計算表を参考にしています。水分摂取については、こまめに声かけを行い職員が情報を共有しながら対応はされていますが、その記録がされていません。	○	一日を通じて飲水量がどの程度摂れているのか、特にむせや飲み込みの悪くなった方の水分摂取量の記録が求められます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感や季節感を感じられるように生け花やフローア飾りにも配慮されています。 ゆったりとくつろげるスペースがあちらこちらにあって、利用者が新聞を読んだり、会話を楽しんでいます。天窓には簾がかけられ眩しさを防いでいます。 浴室、脱衣室については、今以上にスペースを広げる工夫が望まれます。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはベッドやタンスを用意していますが、鏡台、仏壇、ミニ机、椅子、テレビ、本棚、家族の写真等々使い慣れた家具や仏花を供えています。 窓からは庭が眺められ緑のある空間も確保されています。		